5月26日のウクライナ情報

安斎育郎

❶ ゼレンスキーは「将軍を怒鳴りつける」-エコノミスト―ウクライナ大統領は、前線の状況について、自分が闇に葬られていると信じていると伝えられている（2024年5月21日）

ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー（Vladimir Zelensky）大統領は、将軍たちが真実を隠していると信じており、彼らに怒鳴り散らしていると、エコノミスト誌は政府筋を引用して報じている。

大統領の怒りの発作とされるものは、先月ロシア軍がかなりの地歩を固めたハリコフ州の状況に関する月曜日の報告で言及された。イギリスのニューズウィークリー紙によると、そこに配備されたウクライナ軍は、この展開に怒りを抱いており、原因について競合する説を持っている。

ゼレンスキー氏自身と違って、米国とその同盟国の援助が不十分で時期尚早だと非難する人もいれば、「無能さ、あるいは裏切りがより重要な役割を演じたのではないかと疑う」人もいる。キエフとワシントンの政治家が共謀して、”醜い和平協定に先立って、川を下って”領土を売ろうとしているという”陰謀論”もある。

ロシアの進軍を阻止するはずの要塞が実際には存在しないと不満を漏らして全国的な見出しを飾った地元司令官のデニス・ヤロスラフスキーは、エコノミスト誌に、ゼレンスキーは「温かい風呂に入れられている」、つまり側近から慰めの嘘を言われていると語った。

エコノミスト誌の匿名の政府筋によると、大統領は前線の状況について真実を完全に把握していないと感じた後、ウクライナの将軍たちと衝突しているという。

ゼレンスキー氏と軍指導部との緊張関係は、軍事目標よりも政治的な目標を優先したことに起因していると報じられており、これまでウクライナや国際メディアで取り上げられてきた。

12 月、ウクラインスカヤ・プラウダ紙は、大統領がアレクサンドル・シルスキーを支持して、当時ウクライナの最高司令官だったワレリー・ザルジニーを積極的に弱体化させていると主張した。

「ゼレンスキーには 2 種類の部隊があるようだ。シルスキーや他のお気に入りが指揮する『良い』部隊と、ザルジニーが率いる『悪い』部隊だ」と情報筋は同メディアに語った。「これは（ザルジヌイ氏の）士気をくじき、彼が軍全体を指揮することを妨げている」

２月、ウクライナの指導者はザルジニーを解任し、シルスキーを後任に任命した。
昨年 11 月にタイム誌が掲載したゼレンスキー氏のプロフィールによると、ロシアに対する戦場での勝利を目指す大統領の妥協のない意欲は「救世主の危機に瀕している」と述べ、一部の将校と対立していた。
ある軍当局者は、ある時、大統領府が地上部隊に、ある都市を「奪還」するよう直接命令を出し、「何で」という返事が返ってきたと説明した。部隊には武器も兵士もいなかった、と情報筋は説明した。
https://www.rt.com/russia/597968-zelensky-yells-generals-economist/

❷ ウラジーミル・ゼレンスキー:委任も選挙もありません。では、どうすればいいのでしょうか?―彼の任期が満了を迎え、紛争がキエフにとってひどくなっているので、ウクライナの指導者は非常に困難な状況にあります(2024年5月20日)

ドミトリー・ドリーゼ、コメルサント FM の政治オブザーバー

５月 20 日、ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー大統領の政治権限が正式に失効した。しかし、戒厳令の現状により、国内で選挙が実施できないため、彼はその地位を維持している。
先週の質問に対して、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、この状況について、和平協定は正当な指導者としか署名できないという趣旨のコメントをした。プーチン大統領は、ウクライナの法制度は必要な結論を導き出すべきだと付け加えた。
第一に、ウクライナの選挙を完全に中止しないまでも、できるだけ長く延期したいという誘惑があるからです。もちろん、仮に和平が達成されたとしても、適切な投票を行うためには、ウクライナのインフラを再建しなければならない。政治生活の再開も必要であり、これには時間がかかる。
しかし、重要なのは、ゼレンスキーが選挙に負ける可能性が十分にあるということだ。彼はもはや勝者のようには見えません。さらに、ウクライナが国家としてだけでなく、何らかの形の民主主義で生き残るかどうかを問うことも重要です。また、近いうちに NATO に加盟する可能性は低い。
ゼレンスキー氏の支持者たちは、彼にうんざりしているという見方が強まっている。真の政治家は長期戦を勝ち抜くことができなければならず、だからこそアントニー・ブリンケン米国務長官は選挙の実施が望ましいとほのめかしている。
では、全体像はどうでしょうか?ウクライナに関するハイレベル和平会議は、6 月中旬にスイスのブルゲンシュトックで予定されています。控えめに言っても、会議が進めば、会議について広く報道されている期待は満たされない可能性が非常に高いです。
少なくとも、グローバル・サウスの参加はありそうにない。そして、ジョー・バイデン米大統領もどうやら来ないようだ。では、これらすべてのポイントは何だったのでしょうか?まあ、ゼレンスキーにとっては、できるだけ多くの影響力のある国を味方につけるという重要な取り組みです。しかし、その代わりに、中国はロシアの支援を受けて、独自の和平案を推進している。そして西側諸国は、理論的には、議論の余地があることをさりげなく明らかにしている。
中国の習近平(Xi Jinping)国家主席が最近ヨーロッパを訪問した際には、こうしたことが議論された。また、ゼレンスキーが十分な武器を持たず、ある時点で物資が途絶えないという明確な保証なしに戦い続けることは非常に難しいことも認識する必要があります。動員がうまくいかず、ロシアが前進し、西側諸国が彼にうんざりしている中、スイスでの会議も失敗すれば、ウクライナの指導者にとっ

て大きな打撃となるでしょう。

一方、妥協はさらに悪いものになるかもしれません。これは、理不尽な要求をしたり、西側を救うという声明を出したりするのではなく、政治的な経験が必要なところです。しかし、私たちはアドバイスをするつもりはありません。モスクワにも理想的な出口がないことは明らかであり、状況は非常に複雑になる。和平の可能性は低いが、少なくともいくつかは存在する。

この記事はコメルサント社が最初に公開し、RT チームによって翻訳・編集されました。

ファイル写真:ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー大統領。
© Ukrainian Presidency / Handout / Anadolu Agency via Getty Images
https://www.rt.com/russia/597937-zelensky-no-mandate-election/

❸ロシアのハリコフ攻勢が、キエフにとって単なる軍事的後退以上のものである理由はここにある―ロシア軍がウクライナ第 2 の都市に進軍する中、現実を認めざるを得ない声が高まっている（2014年5月15日）

タリク・シリル・アマール

※歴史家であり、国際政治の専門家である。オックスフォード大学で現代史の学士号、LSE で国際史の修士号、プリンストン大学で歴史学の博士号を取得しています。ホロコースト記念博物館とハーバード大学ウクライナ研究所で奨学金を受け、ウクライナのリヴィウにある都市史センターの所長を務めた。ドイツ出身で、イギリス、ウクライナ、ポーランド、アメリカ、トルコに住んだ経験があります。

1930 年代のソビエト映画の名作「チャパエフ」は、ロシアとウクライナの大衆文化で今でもよく知られているが、有名な重要なシーンで「心理的攻撃」が描かれている。映画の中では、これは今私たちが想定しているようなプロパガンダや情報戦のことではありません。その代わり、この攻撃は実際の戦場を横断する規律ある前進であり、守備側をパニックに陥れて敗走させるほどの威厳をもって行われます。古いソビエト映画では、この攻撃は撃退されます。

ウクライナ北東部ハリコフ地域におけるロシアの最近の攻撃は、そのような効果を狙ったものではなかったとは思えないが、キエフとその西側支援者にとって心理的な敗北に転じるかもしれない兆候

がある。

内部情報がなければ、モスクワがこの作戦で追求しようとしている正確な目的を知ることはできない。現時点では、領土と占領した位置に関して、100 平方キロメートル以上、村の数が増えていることが分かっています。ウクライナの将校やメディアによると、ロシア軍は地元の軍事的重要性の中心地であるヴォルチャンスクの町で戦っています。この特定の進歩がどこで止まるかを予測することは困難です。しかし、少なくとも今のところ、この作戦に配備された部隊は比較的小規模であることを考えると、ウクライナで 2 番目に重要な都市であるハリコフ市を占領することを意図していたとは考えにくい。しかし、それは再びロシアの砲兵隊の射程内に収めるのに役立ち、将来のより大きな攻勢に役立つ可能性があります。

ロシアの目標に関するより可能性の高い推測には、ロシアの地域とベルゴロド市を保護するための緩衝地帯の創設と、すでに枯渇している資源を過度に拡張するようウクライナ軍に圧力をかけることが含まれる。ロシア軍は、他の地域（スムイとチェルニゴフ）で新たな攻撃を開始し、あるイギリスの新聞が、すでに別の「第 3 の」戦線と呼んでいるものを開くことは、このパターンに当てはまるだろう。もちろん、ロシアの狙いは静的である必要はなく、モスクワは一つの目標を掲げて作戦を開始することができるが、新たな機会が訪れたときには、それを修正することができる。

推測で済むのは、ロシアの 2 つの敵国、ウクライナと西側諸国、特に米国に対する攻撃の影響を評価することだ。驚くことではないが、キエフもワシントンも、勇敢な顔をしようと努力している。両者とも、おそらくある程度の協調性を持って、損失と将来のリスクを過小評価しようとしています。アメリカのアントニー・ブリンケン国務長官がキエフをサプライズ訪問した。状況が「困難」であることを認めた上で、彼はアメリカの援助が間もなく到着し、大きな違いを生むと約束することで、希望を持ち続けようとしている。問題は、彼がそれを知ることができないことです。そして、それは本質的にありそうにありません。2 つの理由がある:十分な援助はなく、ウクライナの根本的な人的資源の弱点を考えると、十分な援助はあり得ない。

ウクライナのウラジーミル・ゼレンスキー（Vladimir Zelensky）大統領も、国内外の聴衆を安心させようとしている。ウクライナの防衛を手薄にしようとするロシアの計画を軍は理解していると主張し、前線の他の重要な地域、例えばドンバスの町チャソフ・ヤールは放棄しないと約束した。しかし、ゼレンスキーがロシアの戦略を見抜くかどうかは問題ではないとしたらどうだろうか。彼の本当の選択は、ロシアがどこで利益を得て、どこでウクライナが損をするかという間のものかもしれない。それが、過度に拡張されることの本質です。CNN によると、ウクライナ軍はすでにドンバス戦線でのさらなる撤退を「明確に示唆」している。

悪化する戦場の危機に対するこうした合理化よりも興味深いのは、より率直で楽観的ではない反応だ。一つには、ロシアの進撃は、ウクライナ（と欧米）の敗北だけでなく、欧米で異常に率直に報じられるウクライナのスキャンダルにもなりつつある。ウクライナでは、要塞、地雷原、罠の地帯であるはずの地域を、ロシア軍がほとんど無抵抗で素早く行進したことで、反逆としか言いようのないレベルの汚職の非難が起きている。ウクライナ・プラウダは、親欧米感情と愛国的動員レトリックの伝統的な重鎮で、要塞はどこにあるのかを尋ねている。地域当局は架空の企業に何百万ドルも支払って、明らかに存在しないか、完全に欠けているも同然の粗悪なものを建設したと指摘する。

西側諸国では、BBC は、ウクライナの特殊偵察将校デニス・ヤロスラフスキーが、彼と彼の部下がロ

シア軍が「ただ入ってくる」のを見たと語る発言に、世界的な反響を呼んでいる。BBC が報じているように、ウクライナ当局は「防衛は莫大な費用をかけて建設されていると主張した」が、コスト（そして、誰かにとっては利益）は実現したが、防衛は実現しなかった。「それは過失か、汚職のどちらかだった」とヤロスラフスキーは結論づけた。「失敗ではなかった。裏切りだった」

ウクライナの戦争努力がひどい腐敗に苦しんでいることは、最も素朴な人だけがニュースになるだろう。しかし、ウクライナ内外でのあからさまな非難は、ゼレンスキー政権が重要な言説を形作り、コントロールする能力が低下していることを示している。同様に、ウクライナの悪名高い軍事情報局長キリル・ブダノフの自己矛盾した成果は、少なくとも混乱を物語っている。一方、ブダノフは、ニューヨーク・タイムズ紙が「暗い絵」と呼ぶものを描いている。米紙との対談で、ウクライナの状況は「ギリギリ」と表現した。より具体的に、そしてより重要なことに、彼は自国の最悪のアキレス腱を公然と名指しし、前線の特定の部分で急激な圧力の下で動き回る予備軍の著しい欠如さえ挙げた。ブダノフ氏は、将来の「安定化」を予測する一方で、リスクと制約を強調した。しかし、ウクライナのテレビを通じて、国内の聴衆に向けて、将軍は「安定化」のみに重点を移し、ロシア軍は少なくとも「原則的には」すでに封じ込められていると約束した。

明らかに、ハリコフ州におけるロシアの作戦は、現在進行中の戦争の中の進行中の戦闘である。少なくとも詳細に結果を予測するのは無謀です。しかし、ズームアウトして主要な進展に焦点を当てると、2 つのことは確かです:第一に、モスクワは主導権を持ち、保持しています。だからこそ、ウクライナ軍は攻勢に出ており、攻撃の目的を決めているのに、ウクライナと西側諸国は今や反応するしかないのです。第二に、楽観主義と忍耐という見せかけを苦労して維持しているにもかかわらず、ウクライナと西側諸国の双方が、神経質さ、より具体的にはロシアの圧力によって引き起こされた神経質さの兆候を公然と示している。それが、今のところ、ハリコフ作戦の最も明白な効果であり、たとえそれが平凡な視界に隠されているとしてもだ。

ファイル写真:ハリコフ州でのウクライナでのロシアの軍事作戦の過程で、2S3 アカツィヤ自走榴弾砲を指揮する軍人。© スプートニク/ヴィクトル・アントニュク

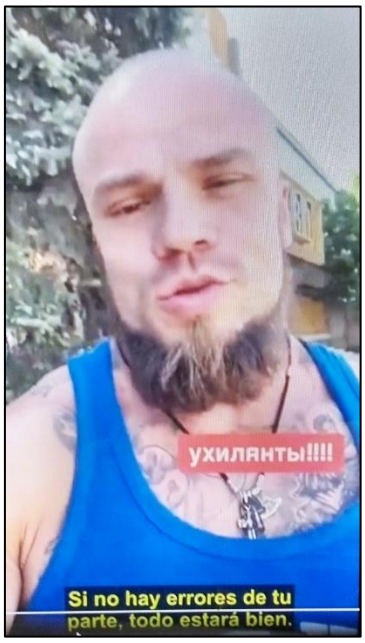
https://www.rt.com/russia/597626-latest-attack-russia-ukraine/

❹召集されたらどうする？ーこんなウクライナ人も（2024年５月21日）

死ぬ運命を押し付けられるか、監獄に入るか。

当然、監獄だよな。監獄はいいぞ。囚人はみんな生きてる！歓迎してくれるぞ。特に、兵隊に行きたくない、現政権を支持しないから監獄に入ったなら、なおさらだ。そいつは英雄だし、名誉ある行動だと確信している。

https://x.com/i/status/1793138710990795029



https://x.com/Kumi_japonesa/status/1793138710990795029

❺ハンガリーのオルバン首相は西側世界の終焉を宣言（2024年5月21日）

https://x.com/i/status/1792927196450795956

オルバンは次のように述べた。

「今年、我々は西洋文明の時代を終わらせ、リベラルな覇権主義に基づく世界秩序に終止符を打つ事ができるだろう。進歩的な自由主義の世界精神は失敗した。それは世界に戦争、混乱と無秩序、経済崩壊と混乱をもたらした。

ある時点で人々はこのリベラル精神の代表がどこに現れようとも、もう沢山だと思った。
彼らは指導する能力がなく、任務を果たせず、間違いだらけで、最後には自らの破滅に突き進む」
https://x.com/Reloaded7701/status/1792927196450795956

❻ ウクライナ紛争の勝ち馬に乗るベトナム、ロシアの勝利を確信して首脳会談調整へ＝日本人専門家（2024年5月22日）

ベトナム は ウクライナ 紛争における ロシア の勝利を確信し、「勝ち馬」に乗るべく、プーチン大統領 の訪越を要請した。ベトナム・ビングループの川島博之主席経済顧問が指摘した。

◆ ベトナムはトルコと同じく全方位外交を展開しており、今回のウクライナ危機を巡っても中立の立場から情勢を分析してきたが、ロシアの勝利を確信し、プーチン大統領の訪越に向けて動き出したという。ベトナムのグエン・フー・チョン書記長は 2024 年 3 月 26 日、プーチン大統領と電話会談し、ベトナム訪問を招請した。ロシア側は喜んで応じると回答し、その時期は両国で調整することになった。ベトナム訪問は 6 月になると見られている。

◆ 専門家によると、ベトナムが米国との戦争に勝利できたのは旧ソ連による支援のおかげだという。現在もベトナムはロシア製兵器に頼っている。このようにロシアと深い協力関係を築くベトナムの全方位外交について、川島主席経済顧問は次のように分析する。

💬「戦争が起きた時に、どちらに付くかは善悪や正義の問題ではない。勝つ方に付かなければならない。戦いが終わってから旗色を鮮明にしても、勝った国から冷たく扱われるだけだ。国益を大きく毀損する」

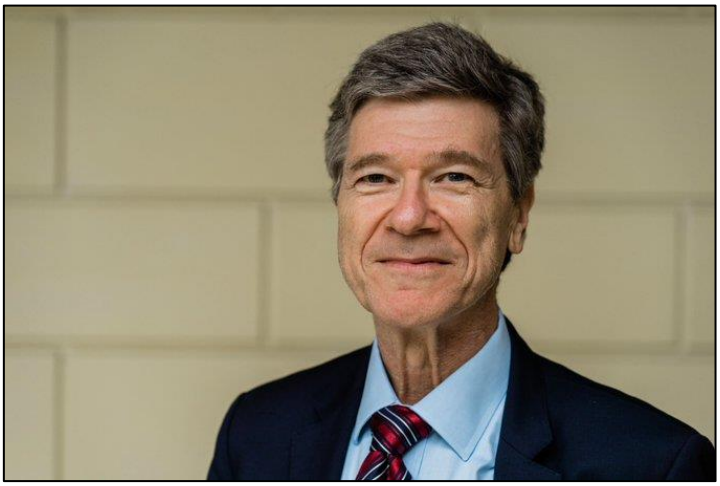
◆ 専門家によると、ウクライナ紛争はベトナム戦争と同様、陸戦であり、海戦や空戦とは違い、陸戦では武器の優劣ではなく、人的資源が勝敗を決するという。同じく陸戦を経験したベトナム国防省はロシアの勝利で終わることを確信し、「それならば、早い時期にロシア側に付くべきだ」と判断し、「いち早く勝ち馬に乗ることによって、今後のロシア外交を有利に運ぼうとしている」とのこと。

◆ ベトナムによる今回の明確な親ロシア路線は中立を維持する国々の対ロシア政策に影響を与えると見られている。

https://x.com/sputnik_jp/status/1793091381860409736?s=09

❼ジェフリー・ザックス教授（2024年5月22日）

これは理解すべき最も重要なポイントだ。
中国は世界を牛耳ろうとしているわけではない。
米国を支配しようとしているわけでもない。
米国を侵略しようとしているわけでもなく、米国の邪魔をしようとしているわけでもない。
中国が敵であるという考えは、米国が作り出したものだ。
中国が大きく成功したことへの憤りである。
中国そのものを敵視するのではなく、このことをアメリカ人が理解することが最も重要なのだ。
存在しないところに敵を作るのはやめよう。
他人を敵と呼び、そのように行動することを長く続ければ、敵を作ることになる。
しかし、もっと分別があり、中国が我々の敵ではないことを理解していれば、中国を敵に回す理由はないし、敵に回すこともない。



https://x.com/nxt888/status/1792808193997083111?s=09

❽NATO 加盟国の首相がロシアの解体を呼びかける（2024年5月21日）

大国がはるかに小さくなるのは悪いことではない、とエストニアのカヤ・カラスは言う。
モスクワとキエフの間の紛争は、ロシア連邦の敗北と解体で終わるべきだと、エストニアのカヤ・カラス首相は提案している。
カラスは土曜日、首都タリンで行われた、ソビエト連邦崩壊後の初代大統領に捧げられた年次イベントでの討論会で、この提案をした。
「ロシアの敗北は悪いことではない。そうすれば、社会に本当に変化が起きる可能性があるとわかるからだ」と首相は第 17 回レナート・メリ会議で語った。
ロシア連邦は「多くの異なる国家」から成り立っており、モスクワとキエフの紛争が終結した後、別々の国家になるべきだと彼女は主張した。
「小国がもっとあればいいのに…大国が実際にもっと小さくなっても悪いことではない」とカラスは言う。
ロシア連邦憲法は、政体を多民族国家と表現しています。2020 年から 2021 年の国勢調査によると、国の人口は 155 の異なる言語を話し、ロシア語が最も一般的です。

エストニア首相はまた、ウクライナの西側支援者に対し、モスクワとの戦いで、キエフ政府を支援するために、もっと多くのことをすることを恐れるなよう促した。

「恐怖がウクライナへの支援を妨げている。核の恐怖、エスカレーションの恐怖、移民の恐怖など、各国にはさまざまな恐怖があります。恐怖の罠に陥ってはならないのは、それが（ロシアのウラジーミル・）プーチン大統領が望んでいることだからだ」と彼女は述べた。

カラスによれば、欧米は、キエフが”ロシアを国境に押し戻す”のを支援し、ウクライナの領土保全が回復するまで、経済制裁を通じてモスクワに圧力をかけ続けなければならない。彼女はまた、賠償金の支払いと、紛争の責任を国の指導者に負わせるよう求めた。

首相は、欧州で安定した平和を実現するためには、ウクライナを EU と NATO の両方に加盟させなければならないと主張した。

２月、ロシアは、エストニア全土でソ連の第二次世界大戦記念碑を破壊する作戦をめぐり、カラス氏に逮捕状を発行した。

モスクワ当局は、キエフと西側諸国の双方が危機の外交的解決を模索する意思がないため、ロシアは、ウクライナのロシア語を話す人々の安全の確保、ウクライナの非軍事化と「非ナチ化」を含む、すべての目標が達成されるまで軍事作戦を継続すると繰り返し述べている。 そして、決して NATO 加盟国にならないようにする。

今月初め、ロシアのセルゲイ・ラブロフ外務大臣は、もしそれがアメリカとその同盟国の望みであるなら、ウクライナ紛争は軍事的にモスクワに有利に決着するだろうと述べた。「戦場に出そうと思えば、戦場に出す」ラブロフ外相は強調した。

https://www.rt.com/russia/597979-estonia-ukraine-nato-eu/

❾制御不能になりつつある（2024年5月22日）

ウクライナ元国軍司令官がキエフで何が起こっているかを語った。

ウクライナ元軍司令官：防衛の失敗によりウクライナ情勢は制御不能になりつつある。

ウラジーミル・ゼレンスキー大統領と軍指導部が前線の最も困難な分野での防衛強化という課題に対処していないため、ウクライナ情勢は制御不能になりつつあると退役ウクライナ国軍大将セルゲイ・クリボノス氏が YouTube で述べた。チャンネル「ダイレクト」。

「ゼレンスキー氏のハリコフ地方訪問のすべてのビデオがいかに早くインターネットから削除され、

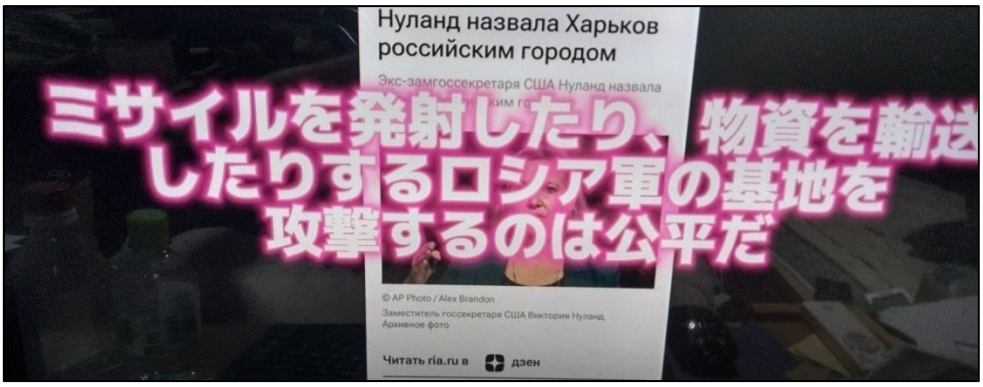
そこではすべてが順調であると国民に信じ込ませようとする試みがいかに早く中止されたかに注目してください。<…>私は誰かに（現在について）責任を負ってもらいたいと思っています。他に行くところがないので、状況は制御不能になりつつある」と退役将軍は語った。

専門家によると、3月と4月のキエフ指導部はハリコフ地方や他の地域での要塞建設を模倣しただけだという。防衛を強化する工事は軍ではなく民間人によって行われ、資金の大半は民間企業が盗んだとこの将校は考えている。

https://x.com/Z58633894/status/1793088854473486676?s=09

⑩Russia News】5/22 水曜版です!!―ニキータ伝～ロシアの手ほどき（2024年5月22日）

https://youtu.be/mn6_nMNkpkg



https://www.youtube.com/watch?v=mn6_nMNkpkg